

港町残照

補稿編

(一) 矢出町・中島町点描

- ① 西爽亭点景 …… 補 1

御成門から式台・玄關の間を望む

御成間と次の間 湯殿・廁手洗

石組み庭と茶室 表庭の老松

(二) 新町東端の点景

- ② 旧柚木家別荘と柚木美術研究所 …… 補 5
- ③ 旧土手町周辺畧図 …… 補 5
- ④ 旧矢出町の古民家 …… 補 6
- ⑤ 旧中島町の古民家 …… 補 7

(三) 玉島港のしゅんせつ

- ① 旧若屋 …… 補 8
- ② 甕江銀行跡 …… 補 9
- ③ 若屋東店跡 …… 補 9



(上) 西爽亭西端の蔵の外壁角に取り付けられた案内板

(左) 西爽亭・御成門から式台・玄關の間を望む

「卷之參港町残照 87ページ  
西夾亭平面図参照のこと」



上 御成の間…本床・脇

床(違棚と天袋)を設けた十畳の部屋で藩主の居間・寝室である。

(註) 上と下とは畳の敷き方に違いがある

下 次の間…御成の間の下手

に続く十畳の部屋で謁見や警護のための部屋。

熊田恰はこの部屋で自刃した。「卷之參港町残照 88ページ参照」





広縁の続きに別棟として建てられた湯殿(写真上の中央右手)と「廁・手洗(同左手)の建物」…内部も見学する  
ことが出来る

庭にある茶室(写真下)は明治初年の建築で「二畳台目中板入り」と称する造りの茶室(奥)と一辺四尺五寸の正方形の小間で天井も低い「煎茶の間」と呼ばれる茶室(手前)がある。煎茶の間の小ささは広縁から庭を眺めた場合の点景として有効な働きをもっている。

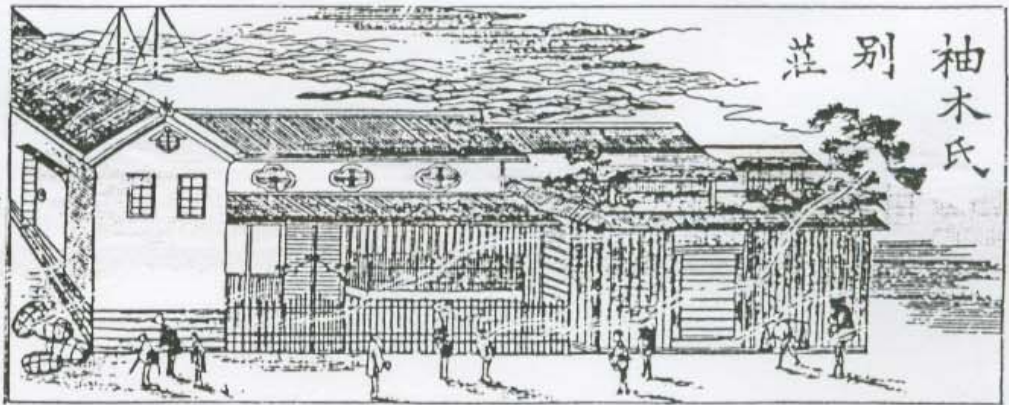


次の間から見た石組みの庭と茶室(右奥建物)

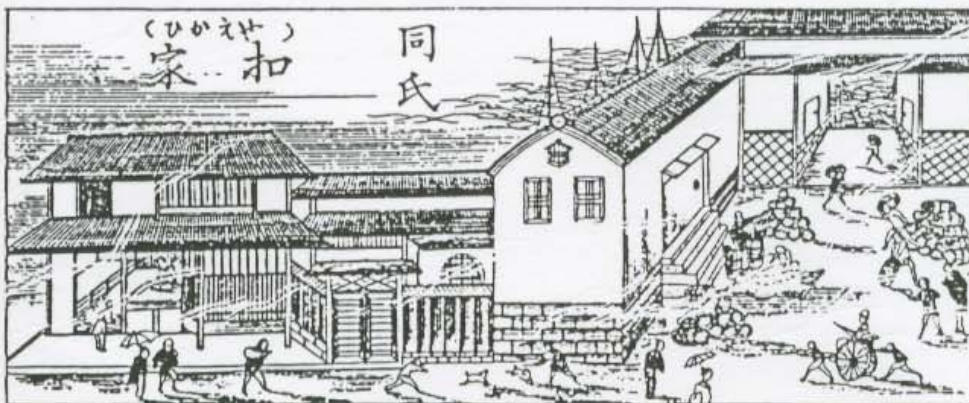


御成門をはいったすぐ右手に設けられたいかな表庭。  
御成の間の北側の障子を開けると眺められる。幕末維新の動乱を  
見据えてきた庭の老松も永年の風雪に耐え難しとか……

(下図の右端に続く)  
上図の建物は今も  
昔月の面影をとど  
める「次ページ上の写  
真参照」

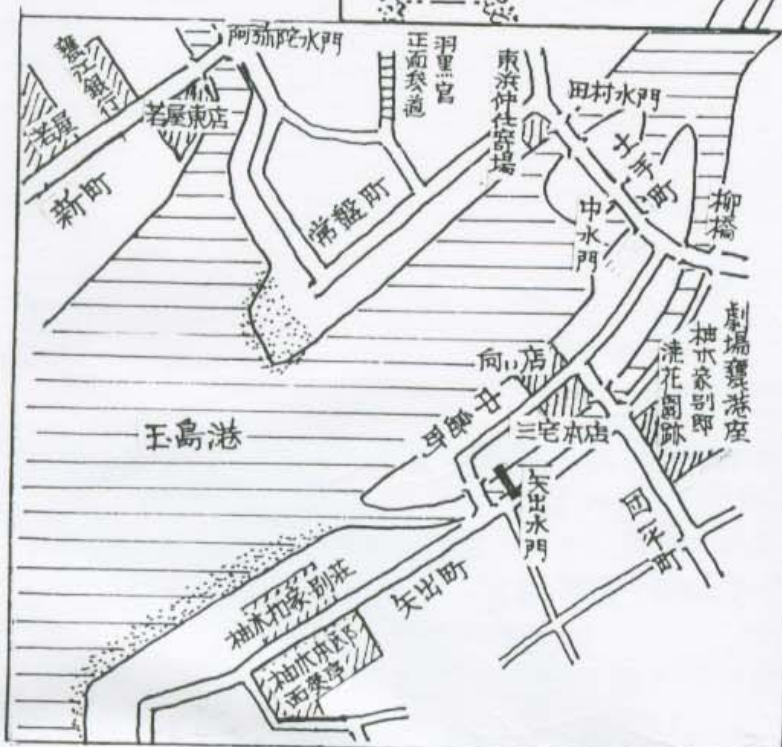
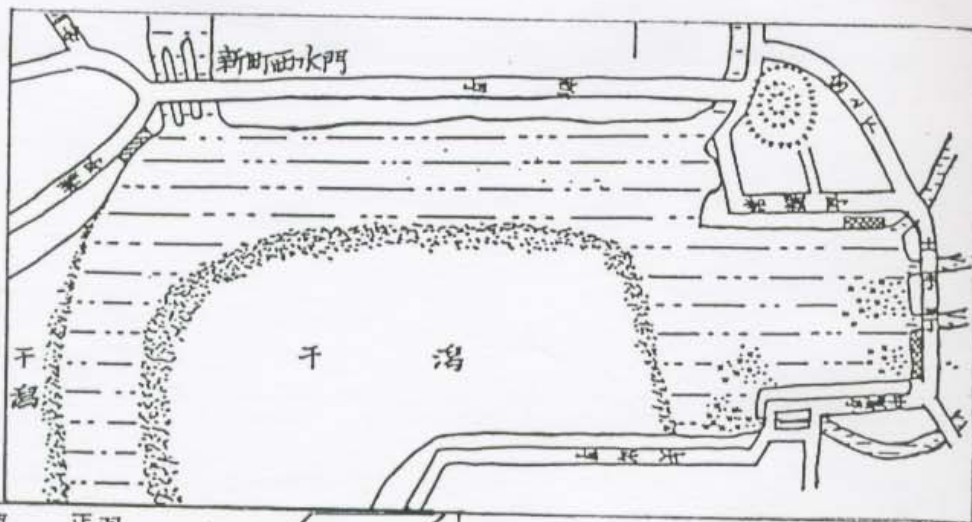


旧柚木本邸(西夾亭)とは道るはさんで北側、かつてはすぐ港で矢出船着場に  
面した旧柚木扣家の絵図。明治時代には海運業で栄えたという。



下図の蔵と家は近年  
取りこわされて柚木  
美術研究所と称する  
新しい建物ができた  
「次ページ上の写真参照」

上図は大正六年四月  
玉島帆船組合が玉島  
町長に提出した玉島  
港埋没箇所図(写し)



上図によると新町西端の水門から  
流れ出る里見川が永年にわたって  
土砂を矢出・川崎の沖合に堆積  
させて干潟を作ったことがわかる

〔10ページ玉島港の浚渫・参照〕

左の図は明治時代の港と港町の  
略図である。活気を帯びた中島町  
矢出町の間屋や商店も港の埋没  
で船が次第に寄りつけなくなって  
衰微し、第一次世界大戦後の不  
景気で大正時代終りごろには転  
廃業を余儀なくされた。



写真左奥の白い建物が抽水美術研究所  
蔵と古い建物が前ページ上図の建物に当る

旧矢出町東部(旧矢出水門付近)の民家



上下の写真ともに手前の家は明治以降の建造と思われる。2階の軒高が高く、窓も前面に大きく作られているのが目につく。  
それに対して 上の写真では奥へ3軒目、下の写真では2軒目の中央の家は2階の軒高が低い。平入り厨子二階・黒塗喰壁に虫籠窓という江戸時代の様式を残す古い民家である。江戸時代には2階を座敷にすることは許されず、軒の低い表側だけの厨子二階に制限されていた。



旧矢出町西部(西変亭の西)の民家

かつては旧中島町の港沿いには蔵が立ち並んでいた。今では跡地が駐車場となったものもあるが、改装され姿を変えて今なお健在なものも見られる。



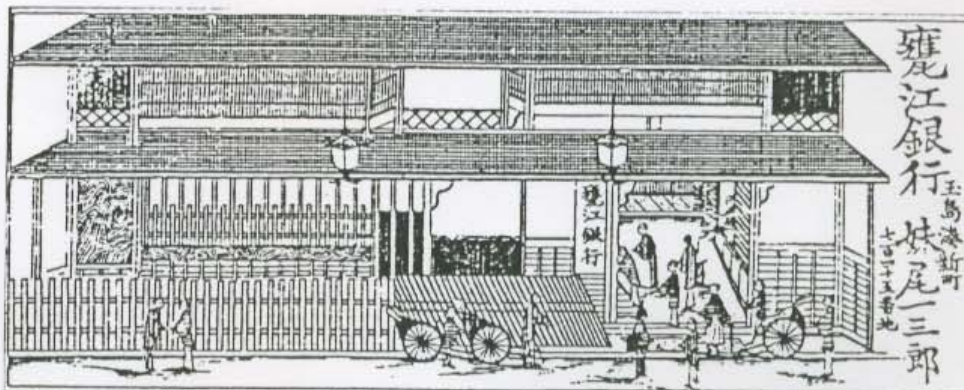
上の写真右奥の一部4階建てビルの付近に「文具のみやげ」があり、明治期には上の絵図の三宅向イ店として船着場に接して活気があった。

〔5ページの地図参照〕

左の写真はみやげ書店に続く住宅で、下の絵図三宅本店の右部分に当り今も昔の面影を残している。絵図の左の店部分は今改装されて書店となっている。



雅江銀行  
玉島港新町  
 妹尾三郎  
 七百二十五番地



明治13年という極く早い時期に個人資本によって設立され、湊町商店街の隆盛を支えた。その後中国銀行玉島支店へ合併された。

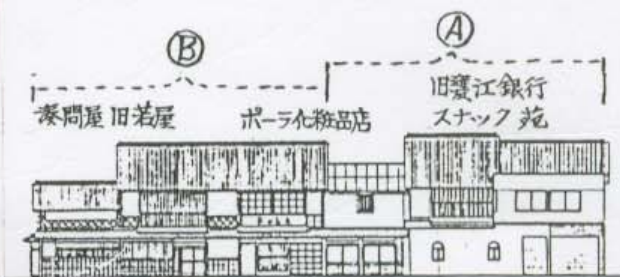
現在はスタック苑(次ページ)下の写真と説明参照)

右絵図の二階左半分が僅かに現在も昔日の姿をまごめっている。



旧若屋の建物東半分(ポラ化粧品店)が極く最近取り壊されて、東面が改装されて新しい姿を現わした。

下の立面絵図ではスタック苑④とポラ・旧若屋⑤の建物が非常によく似ている点に興味が引かれるが今では見ることができなくなり残念である



若屋

江戸時代中期(一八〇年頃)の建物で穀物等を扱う問屋の店舗として使用されていた。新耐は最古の建物の当時の佇まいがよく保存されている。

平成四年八月  
 新耐ルネッサンス振興会



若屋東店の跡……中段の絵図の左側の  
小さな建物が改装されて、喫茶「良寛庵」  
として僅かに残っている。



絵図の蔵とその右  
の主屋の店は取り  
壊されて今は駐車  
場となる  
(上の写真の右側)



淡  
仲  
買  
王島港新町  
若屋東店  
山本嘉七



下の写真の右の白い建物が  
スタック苑……モルタルの外壁  
に覆われて昔日の面影がな  
いが、苑の着札の奥にある  
2階部分は瓦屋根に狐格子  
などが見られ僅かながら面  
影がしのべる(下図2階)



嘆願書

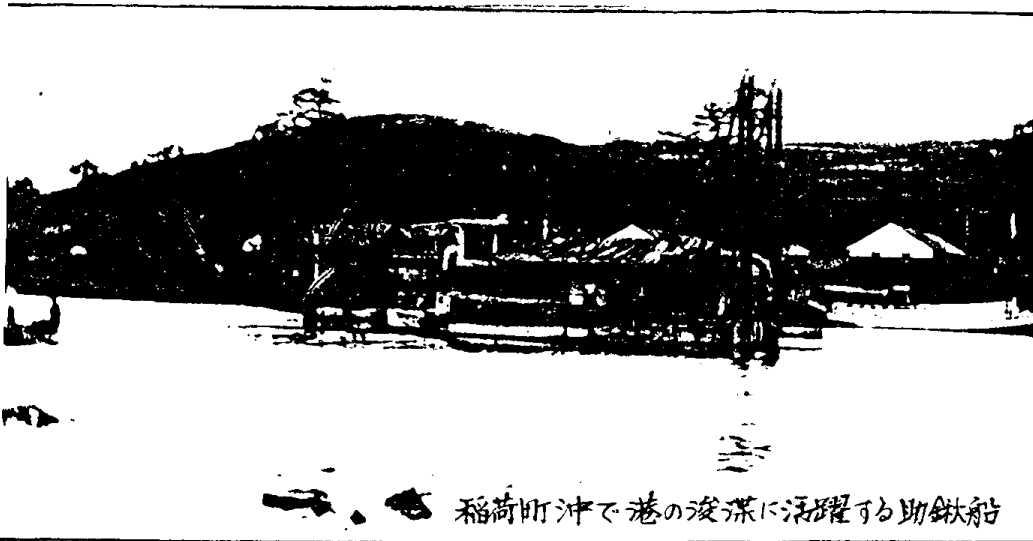
拜呈 春暖の候 大人愈々御清康御勅務の奈恐  
 悦に奉り候。 却説 御承知の如く 我地は天然  
 の良港にして古來荷物の運輸に便し 以て商業  
 に多大の好景況を得申しあり候。 然るに年月を  
 経るに連れ 土砂の為港内を埋没しつゝこれあり  
 候。 之れ町民はもとより更に御当局者の人々に深  
 痛を感ぜらるる事に存じ候。

就ては幸 県庁より助鉄船（よきてんせん）にて掘土作業いたし  
 あり候えども 区域縮小にして除土より以上の埋  
 土ある義にて 年々港内を浅水ならしむるは誠に  
 遺憾の至りにござ候も また如何ともいたしがた  
 き事にて候。

而して昨今に至り 前紙（らべし）段回（段回参照）の箇所において埋  
 没著しく干潮期は数寸余りの浅水となり 如うる  
 に東共同荷揚場付近は捨石の散在するあり 小舟  
 の碇泊航行ともに至難となり申し候為 我々乗船  
 業者の困苦と共に各商店の不利甚大と愚考つかま  
 たり 今般之れが掃除の目的を以て前紙寄付金  
 を集め申し候次第にてこれあり候も 之が作業は  
 個人の致すべきことの不可なる義と存ぜられ申し  
 候につき 前紙図面と寄付金芳名録を差出し申し  
 候につき 此の作業を町営となしおき何分の補助  
 金と減しくだされ候て 一日も早く作業を御履行  
 成しくだされたく願ひ上げ候

大正六年四月  
 玉島町長 広瀬正雄殿

玉島帆船組合印



稲荷町沖で港の浚渫に活躍する助鉄船

寄付金総額  
 936円

寄付者  
 海運業者、問屋や  
 商店、銀行、紡績  
 などの企業、一般町民  
 計212筆



下の絵は 助鉄船(浚渫船)のスケッチ

玉島港の浚渫